

熊本市子どもの未来支援基金助成団体 活動報告書

団体名 NPO法人 コロボックル・プロジェクト

代表者 理事長 甲斐原 巖

1 活動の概要

- ・日時 : 令和元年7月27日(土)～28日(日)
- ・場所 : カイハラ動物病院保養所
- ・内容 : **生きもの共生教育** (自然体験活動と未来プラン作成、動物ふれあい活動)
- ・参加人数 : 発達障がい及びその傾向のある子ども7名、**生きもの共生教育(特別支援・動物介在教育)**関係者13人、計20名

2 活動における留意点

- 安全に安心して活動できるプログラムづくり
 - ・下見の徹底 : 移動路(動植物など)や活動場所(バンガロー・川)
 - ・自然災害に関する情報収集 : 酷暑や噴火など
 - ・余裕のあるプログラム進行 : プログラムの柔軟な変更
- 安全・安心して活動できる支援体制づくり
 - ・「フェイスシート」による特性把握: キャンプの楽しみ確認
 - ・スタッフ全員によるキャンプ全体の見守りと情報交換
 - ・係の分担化 : 班ごとの活動と食事づくり、全体掌握



3 活動の成果(アンケートの結果より)

(1) 子ども

- ①「やんちゃキャンプはどうでしたか」4段階評価・6名
 - ・とてもたのしかった 6名
- ②「楽しかった・うれしかったことは？」複数回答・6名
 - ・**川遊び**(泳げた) 5
 - ・**犬とふれあい**(犬といっぱいふれあえたから、動物をさわったりだっこしたりしたこと、ククちゃんが私のひざにのったとき、かわいかったしうれしかった) 5
 - ・**友だちとなかよくなれた**(1年ぶりに〇〇やんと会えたこと、友だちに会えたこと) 2



(2) スタッフ

- ①「やんちゃキャンプはどうでしたか」4段階評価・6名(特別支援教育関係者:全活動参加)6名
 - ・とても楽しかった 4/6 ・楽しかった 2/6(動物介在教育関係者:動物ふれあい活動参加)4名
 - ・とても楽しかった 2/4 ・楽しかった 1/4
- ②「自然とのふれあい活動」で大切にしたこと、子どもの反応は?
 - ・植物のこと、川遊び、犬とのふれあいそれぞれで、大人の感覚をおしつけないようにした。子どもの感想を大切にしたいと改めて思った。
 - ・草花に目を向けさせてもらうと、素直に反応し自分の中に取り込んでいるように見えた。川の水の冷たさや流れの速さも体感できたし、楽しんでいる様子が心に残った。
 - ・歩きながらの観察で初めて発見したこと、驚いたことなど、たくさんあったように感じる。川遊びはいつもできないことで、子どもたちの最高の笑顔が見れた。
 - ・言葉遣いがよくなってきたと思う。気づいてまわりの様子になれてきて、すごい力と感じた。



③ 「動物・犬とのふれあい活動」について

- ・内容（質）（量）（時間）ちょうどよい 7/10（特別支援6/6、動物介在1/4）
短い1/4（動物介在1/4）
- ・インストラクターの説明：聞き取りやすい7/10（特別支援6/6、動物介在1/4）、
ちょうどよい5/10（特別支援3/6、動物介在2/4）

④ 心に残ったことや意見・感想

○ 自然とのふれあい活動

- ・川遊びの時とても楽しそうであった。歩くのもみんな楽しく歩いていて、安心した。

○ 未来プラン作り

- ・とてもよい。
- ・進め方はとてもよかった。がんばっていることだけでなく、日ごろの自分の生活や行動をみつめさせることもありかなと思う。みんな発表の仕方もスムーズにできて、すごいと思う。
- ・一緒に考えることができ、発表する姿が見られてよかった。
- ・子どもたちと様々な夢や学校での時間などを共有できた。

○ 犬とのふれあい活動

- ・とてもぜいたくな時間で本当にありがたい。犬の気持ちを考えること（表情）を普段の人間関係の中でやっているかなと改めて思った（飼い主さんたちの振る舞い自分を振り返れた）。
- ・ふれ合いも交流のしかた、接し方等、次第に体得していく様子が見られ、よかった。
- ・挨拶や距離感の大切さを改めて確認することができてよかった。出会いを大切に、これからも活かしていきたい。佐藤さんのお話はいつも心にひかれる、いやされる。
- ・時間の経過とともに子どもたちの表情や体の緊張が抜けていることが分かった。
- ・子供たちの成長がいろいろみられて、いい活動でした。1時間という限られた時間内で、犬たちのストレスを見ながら、そして子供達の要求にどれだけこたえられるか毎回勉強です。
- ・犬を囲い込む場面が少し気になったので、一頭に行く人数を調整するとかが必要だ。子ども達は犬とふれたいという気持ちの一方でびっくりさせないようにという配慮を体得していた。
- ・やさしく近づいてくれて、なで方もやさしくて、途中から天もリラックスでき、いい方で終わることができた。ドッグランで一緒にお散歩したり走ったりできることが楽しみです。
- ・初めはぎこちなく手を伸ばしていた子供たちが少しずつリラックスしていくと、犬のストレスサインがなくなりリラックスしていく様子に、お互いの心の動きがよく表れていた。自分の家の犬との違いを話してくれたり、楽しい時間でした。

⑤ その他

- ・みんなの成長（体も心も）を感じられて、ずっと参加している実感・感謝を新たにした。同様に、自分の子ども2人も、このスタッフのみなさんにずっと見ていただいているのだなーと思うと、成長を見つけていただいているといいなと思う。
- ・はじめてハンズに来た時の緊張感がしだいにほぐれていく様子がよくわかった。
今年は昨年より人数が減りましたが、それなりに充分楽しめたのではないのでしょうか。
一人でカレーライス作り、大変だったのではないのでしょうか、感謝♡
- ・カレーの食材の買出しから仕込みまでさせていただき責任感があり、やんちゃキャンプの今までの経験を活かすことができた。（確認が必要な事項：食事時間、セルフサービス、米の量他）
- ・子どもの言葉や意見を尊重しつつ、だめなことはだめとはっきり言えるようにしたい。

4 活動における課題

(1) 安全に安心して活動できるプログラムづくり

- ① スムーズな活動展開と柔軟なプログラムの**いっそうの**展開
- ② 秋・冬期の犬・自然体験の実施
- ③ **未来プランの実施・評価**

(2) 安心して活動できる支援体制づくり

- ① 関係機関との連携 (**相互評価**) の充実
- ② スタッフ養成 (**参加スタッフの招待**)

5 上記課題への解決策

- (1) ① スタッフ間の情報交換・**共通理解**
- (1) ② 秋・冬期のキャンプ実施
- (1) ③ **秋・冬期のキャンプでの評価**
- (2) ① **生きもの共生教育**の共通理解
- (2) ② 子ども発達支援相談センター コロボックルでの研修充実

6 今後の活動の方向

「四季折々のやんちゃキャンプ (**自然楽校**)」

7 連携している団体

- ・動物介在教育チームカイハラ
- ・相互支援の会スマイルハート

() ^{みらい} の未来プラン 令和元年7月27日(土)

やんちゃキャンプバージョン②

1 夢ゆめ
A リョウリ人
B リョウリの本をつくる。

2 (3)年後の自分
A1 自分と好きなリョウリをつくる (F.まごやまのり)になりたい。
A2 リョウリの本をもち母のつたてりができるぶんまでいい。
B

3 今の自分
④ リカのテストでほぼ100点です。おのびのりリョウリを
② すこし、てつだったりする。
① 糸会をがとのがまき (マ)が7にちゅうせんでかんあがった。
③

4 必要な力・パートナー
① センゾウみんぎをマスターする。
② ちゅうだりをする。
③ ~~パ~~

5 1年後の自分
(A) 1人にやエしする
(A) 2けんこうなぶんじょうみでいる。
(B)

6 初めの一步
① F.L.さんおてつだいをする。
② もりつが"くしいぶんじょうみ
B